

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）



教材教具の工夫

1 実態に合っているか?	?
2 ねらいが明確か?	○
3 興味関心を生かしているか?	◎
4 シンプルで誰でも再現可能か?	▲
5 一目で動作をイメージできるか?	?
6 児童生徒も教師も使いやすいか?	?
7 実際の生活や他の場面で生かせるか?	×

作成者：花岡 賢 (高等部)

2 児童生徒の実態



- ・機械、食べ物、などに強い興味を示す。全般的に好奇心が旺盛である。
- ・自分の欲求が抑えきれず、突発的な行動に出ることがある。
- ・過去に経験した活動や危険な体験などを記憶して、学習や生活の中に生かすことができる。
- ・教師を意識して自分のできないことを依頼したり、教師の行動をまねようとするができる。
- ・想像される危険→手をいれる、回転中のドリルに手を伸ばす。

3 教材教具のねらい

- ・興味関心を生かしたい。
- ・日常生活全般への影響も含め、安全が確保できるならば、使用する経験を積む中で、安全な操作を学んでほしい。

4 改善の経緯

(1) 4月頃の児童生徒の様子

- ・興味のある機械、道具などは危険を感じることなく、スイッチを入れたり、さわったりする。
- ・興味のあるものを見つけると、急に座り込んだり、走り出したりと突発的に動くことがある。



(2) 10月の状況

- ・ミキサーや草刈り機など、使用の経験を積んだり、十分観察したものに対し、以前は駆け寄りさわろうとしていたが、一度立ち止まり観察したり、怖いという様子を示すことがあった。
- ・技術科の教師が学習に加わり、安全確保できる状況ができた。
- ・生徒1対教師2の体制が取れ、安全が確保できる時間があった。

(2) 12月現在の使用例や児童生徒の様子

- ・おおすげ祭への作品作りという単元が終わったため現在ドリルの使用はしていない。
- ・ドリルは鍵のかかった部屋にあるが、以前のように興奮することはない。
- ・教師の提示する教材に対して、さわってみたい、やってみたいという好奇心が高まった。

電気ドリルの使用にいたった根拠

・機械を怖がっているか?	○
・教師の指示や支援を受け入れることができるか	○
・操作するための手指等の動きに問題はないか	○
・機械の安全を図るため専門家の支援は受けられるか	○
・安全で的確な操作を指導できるか	○
・結果の見通し(穴が開く)を持つ力があるか	○
・日常的に機械の安全が確保できるか	○
・日常生活の中に悪影響はないか	○
・成長への良い影響が考えられるか	○

今後の改善や使用について

- ・ドリルを始め、興味関心を満たしながら様々な経験を積むことで、学校や社会の中でより落ち着いて過ごすことにつながると思われる。周囲への影響や安全の確保など考慮しながら、様々な経験を広げていきたいと考えている。